



園芸作物栽培に関する

これからの対策

Q & A



トマトなど野菜の始末時には抜根し観察します。異常があれば次年度の対策が必要です。

気象概況

11月は季節が秋から冬への転換期で気温変化の激しい月となります。中旬以降は霜や初雪が見られるようになります。天気は数日の周期で変わりますが平年に比べやや高めで晴れの日が少なく日照時間は少ない見込みです。

◎晩秋期の管理

◎圃場の整理

今月中にナス、トマトなど夏野菜の始末をおこなう。放っておくとダニやアブラムシ、アザミウマなど害虫が土中に潜ったり、卵や幼虫が圃場に残されたりして翌年の発生が多くなります。また支柱なども汚れをふき取ってから保管しましょう。

◎秋野菜の管理

中頃までは害虫の活動も活発です。結球や蕾の内部に害虫が食食われないよう早めの防除を心がけましょう。追肥は気温の低い時期にも効きが早い「化成肥料」や「野菜の達人」などの化成肥料を使います。また老化した下葉などにより土壌水分が高くなり根の機能がさらに低下してきますので溝潅水など排水の促進を図っていきましょう。

◎害虫防除

11月前半は秋野菜の収穫ピークですが害虫の発生は当面取りこみやすいです。使用する農薬も収穫直前まで使用できる薬剤を選択する必要があります。防除薬剤一覧表は前年11月号に記載してありますので参照してください。

◎追肥と病害防除

生育が思わしくなく追肥を過剰にされる方が多いですが、今秋は降雨量が多く根腐れなど根の機能低下による生育不良が多くなっています。まずは畝間の土を潅水の上で盛るなど圃場の排水促進を図りましょう。また肥料は降雨で流しやすいため一回当たりの施肥量を少なめに回数でカバーしましょう。本年は根こぶ病もあちこちで見かけます。生育の遅



下葉の黄化は根の病害・排水不良などで機能不全が原因となっている。

れ・下葉の黄化・晴れた日に葉が萎れるなどの株は疑わしいので根の状態を確認しましょう。また株元が常に湿っていると軟腐病などが発生しやすくなるので天気の良い日に黄化した下葉は掻き取っておきましょう。排水の良くない畑ではさらに発生が助長されます。本病は雨による排水で広がりますので排水にためてく

◎ネギの病害について

今年には長ネギの葉枯れの問い合わせが多くありました。8月は雨が少なく株の弱りが目立ちましたが、9月以降雨が長く湿度で生育不良や葉先枯れ、軟腐病の発生が見られました。

単純に葉先だけが枯れ込んでいるのは根の機能不全によるもので病気ではありませんが、枯れた部分に二次的にカビが付着しやすくなりますので殺菌剤を散布しておきます。病害による場合は葉の中ほどに病斑が現れてその部分から折れ曲がります。この場合は適宜農薬を選択し防除します。主な病害はべと病、黒斑病、疫病で降雨が続くなど湿度状況で多発しやすくなります。適宜薬剤としてはアミスター20フロアブル、ランマンフロアブル、タコニール10000、ジマンダイセン水和剤などが効果あります。なお、薬剤散布に際しては必ず展着剤を加用しましょう。

◎イモ類の収穫と上手な貯蔵

サツマイモの収穫はほぼ終わりですが11月に入るとサトイモと秋ジャガラの収穫期を迎えます。サトイモは立っている莖が2本程度となったら収穫適期です。ジャガイモは霜にあたり葉が褐変したら天気を見計らって掘りましょう。ジャガイモは低温に強いですがサツマイモとサトイモは良く乾かしてから保存します。サトイモは株のまま、もしくは大割り状態で保存します。温度的にサトイモは最低8℃、サツマイモは最低12℃を目安に保存します。スチロール箱やポリ袋は通気性がないため芋が腐りやすくなります。新聞紙で個装する



ネギの葉先から枯れ込むのは根の問題。葉の中途の異常はべと病などの病気。

モミガラと一緒に段ボール箱に入れて保存します。

◎秋野菜の収穫

○キャベツ・・・早生・中早生系は降雪の衝撃や取り遅れなどで裂球しやすくなります。玉の締まり具合を見て適期収穫に心がけましょう。

○ハクサイ・・・寒さ当たりや降雪などで球の頂部などが傷みます。11月下旬以降は外葉を結束し球を守ります。

○ダイコン・・・播種から60～65日後が収穫の目安です。耕土が浅い場合や排水の良くない畑では抽根が速く、ダイコンが伸び上がってきやすくなります。霜が降りるようになると地上に出ている部分が傷みやすくなるので土寄せしておきましょう。



ネギはしっかりと畝を立てましょう。

○ブロッコリー・・・ブロッコリーは立性なので風の影響を受けやすいため土寄せをしっかりとっておきましょう。寒さに当たった花蕾は紫色に着色しますが品質の問題はありません。

◎越冬野菜の準備

○イチゴ、ニンニクの定植は既に終わっていると思いますがタマネギ、ニンニク、春キャベツなどの越冬野菜の定植とエンドウマメの播種は11月の作業となります。温度のある下旬に終えておきましょう。いずれも積雪期を経ますので圃場の排水対策は大変重要です。播種定植作業が遅れますと地温の低下により冬期間中の根の張りが悪くなり、翌春の生育不足をきたします。適期作業を心がけましょう。また、貧弱な苗は植えずにしっかりと育ててください。タマネギは水が停滞する圃場では腐る株が多くなります。田当たり・排水の良い場所を選んでください。排水が良い場合は畝幅が小さくても充分越冬します。定植は11月の10日頃が適当です。深植えは禁物で茎の白い部分がやや見えるくらいで植え付けましょう。密植にも耐えませんが玉は小さくなります。根が枯れているものや色抜けている苗、貧弱な苗は避けましょう。また、タバコより太い苗や早植えはネギ坊主が立ちやすいため避けましょう。畝幅12～10mとし、条間20cm、株間10～12cmの4条植えが基本です。基肥は1aで石灰10～15kg、チリリン3～5kg、あまひひ4～6kgを標準として地力により加減します。元肥に鶏糞は使用しない方が無難です。年内の追肥は行いません。近年暖冬で圃場雑草が伸びやすくなっていますので雑草対策にはマルチ栽培がお勧めです。無マルチ栽培では雑草の発生抑制を兼ねて随時中耕除草します。除草剤を使用する場合はクローロロリンという薬剤をお勧めします。

○ソラマメの播種は10月中旬で11月中旬に植えます。



キスジノミハムシ幼虫による大根表面の食害

直播きの場合は11月始めごろとなります。年内に生育が進んでしまつと寒さに対する抵抗力が弱るので早植えは禁物です。潅水に弱いので充分畝たてをします。植栽間隔を畝幅70～80cmとし株間35～40cmの1条植えが基本です。基肥は1aで石灰15kg、チリリン3～5kg、あまひひ4～6kg程度とします。

○エンドウの施肥はソラマメに準じます。移植は嫌うので直播が基本ですが補植用にくらかポットに播いておきます。播種時期は11月中旬頃です。植栽間隔はソラマメより株間をやや詰めます。間引きは草丈7～8cmの頃に生育の悪いものを間引き2本立にします。12月に入ったら株元とその周辺にモミガラか堆肥を敷き寒さから守りましょう。

○イチゴの植付けは10月中旬までに終えられたと思います。まだマルチがしていない場合は暖かな日を選んで黒マルチを被せ、株のあるところに穴をあけて葉をマルチの上で引き出しおきましょう。

○ニンニクが未だ植えていない場合は早くおきましょう。ニンニクもマルチの効果は非常に大きい作物です。条間25cm、株間15cmの4条植えが基本となります。植え付けのニンニクは10g前後のものを使用します。大きいと後で芽掻きをしなければならず、小さいと立派なニンニクにはなりません。なお自家種を繰り返すと品質が低下してきますので3年毎には種球を更新しましょう。霜が降り始めるまでに芽が出れば何とかなります。ニンニクは排水の良い土壌を好むので潅水しないよう圃場を整備してください。植栽は畝幅90～100cmとし条間25cm、株間15cmの4条植えを基本とします。基肥は1aで石灰15kg、チリリン3kg、あまひひ5kgが基本です。

○アスパラガス・・・アスパラガスは非常に潅水を嫌う作物で、株が大きくなり根の張る範囲が広がるにつれ湿度で株が枯れてきます。排水には充分気を付けましょう。霜が降りるようになると茎葉が黄変してきたら地際部から刈り取って焼却しましょう。そのあと堆肥、若しくは畝の両側の土を潅水して株の上に盛って防寒対策とします。

○越冬ホウレンソウ・・・春4月頃収穫するホウレンソウ播種は10月末から11月初め頃に行ないます。早過ぎると春になって花がのほりますし遅くなると収量が上がりません。

以上、越冬野菜について共通することは、圃場排水に充分注意することです。雪解け水が溜まる圃場では根が呼吸困難となって根の活性が低下します。また、鶏糞や充分腐熟していない堆肥は地温のある今のうちに圃場に働き込んで来年度の作付けまでに充分土になじませておきましょう。越冬野菜の作付け直前に鶏糞や未熟堆肥などを施用してはいけません。地温が低下していると肥料の利きが悪いばかりでなく野ネズミなどの餌になったり害虫などの格好の繁殖場所となつたりして越冬野菜の生育不良の原因となりかねません。



大門 優
園芸アドバイザー

お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農生活課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499

バックナンバーはJAたんなんホームページ
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。